

# 広報さくら

◆◆第109号◆◆ 令和2年3月1日  
発行:日本大学明誠高等学校後援会



## 主な内容

- |                     |                         |
|---------------------|-------------------------|
| ○ごあいさつ……………学校長 …… 2 | ○サッカー部全国大会報告…………… 6~7   |
| ○1年を振り返って…会 長 …… 3  | ○各部活動関東大会…………… 8        |
| ○講演会報告…………… 3       | ○体育祭応援合戦 …… 9           |
| ○ダンス部全国大会報告 …… 4~5  | ○強歩大会報告・強歩大会…………… 10~11 |



ご卒業おめでとうございます。

お子様が高等学校の課程を無事終了し、ここに新たな出発点に立たれたことを心から祝福申し上げます。

3年前の若木は大地にしっかりと根を張り、養分を吸収し、枝を伸ばし、年輪を刻み、高みに向かって成長をしてきました。そして、その成長は周囲の力、とりわけ陰で支えてこられた保護者の力があってからこそと思います。これまでのご苦勞に敬意を表しますとともに、今後もお子様を「付かず離れず」、適切な距離をもって見守っていただきたいと思ひます。

令和元年度後援会行事に際しましては、石井会長、石坂・奈良・西川各副会長、中島顧問や総務部・研修部・広報部の各部長・委員の皆様、更には各学年委員に至るまで大変多くの保護者の方々に、本校発展のためにと、絶大なるご協力を賜りましたこと、心から感謝申し上げます。5月の定期総会から始まり、文理学部での「研修会」、文化祭「バザー・お茶処」、文理学部河野先生による「講演会」、「賀詞交歓会」、「強歩大会トン汁作り」、そして二度の「広報さくら」の発刊、役員会・学年別委員会の企画や運営などなど……枚挙にいとまがありません。

『五つ褒め、三つ教えて、二つ叱る』という言葉があります。「ああ、叱られるな」と予想した途端に、心は防御反応を起こし身構える。つまり、自分に降りかかる危機を正面から受け止めずに、何とかやり過ごして危険を回避しようとする。そうすると耳に声が届いても、脳は

それを言葉として受け止めなくなってしまうということ……。どうやら叱るよりも、褒めたほうがいいらしい。自分が目の前の相手に受け入れられていると感じているときは、心が開かれている。言葉が脳に届く。心につながる通り道のないところに、ただぶつけられる言葉は、ただむなしい……。今後、彼等は失敗する事が沢山あるでしょう。褒めながら、論しながら、教えながら、最後の最後に……叱る。心の片隅に残しておいてください。本校の後援会組織・活動は「日本一」と感服しています。今後もこの「誇れる後援会」を継承していただけたらと衷心よりお願いを申し上げます。

今年の3年生の進路(1/14現在)は、日本大学226名(68%)、他大学73名(22%)、専修学校16名(5%)です。生徒達の頑張りにより、昨年に引き続き素晴らしい成果が出ています。

一方、現在18名の生徒が入試に挑戦しています。苦しさの中ですが頑張ること、そして、良い知らせが届くことを心から期待しています。人は皆それぞれが、かけがえのない存在意義をもってこの世に生を受けました。生徒が今後の人生において、この日本大学明誠高等学校で培った感性や能力を十分に発揮するとともに、有為な社会人として大きく飛翔、ご活躍なさること並びに後援会の皆様のご多幸を教職員一同心より祈念いたします。

本当にご苦勞様でした。そして、ありがとうございました。



645年「大化」に始まり、248番目となった新たな元号「令和」の元年に、会長という大役を仰せ付き、早一年が経とうとしています。後援会の行事を滞りなく行うことができ、一方で令和元年に日大明誠の歴史に残る新たな功績を生徒達が記すことができたのも、後援会の皆様の大きな支えと、先生方を初めとする学校関係の方々との弛まぬご指導の賜と、ここに心より深謝申し上げます。卒業を迎えるにあたって、「日大明誠に我が子を通わせられて本当に良かった。」と先輩方から聞いていた言葉を、卒業年度の皆様方は、今、身に染みて感じていることと思います。

学校や子供達との距離をととても近く感じ、我が子の成長と共に歩むことができたのも、日大明誠後援会活動の素晴らしさだと思っています。振り返れば、6月には研修部主催の日大文理学部への研修会がありました。学部紹介、入試情報、卒業後の進路など、スライドを交えてご説明頂いた後、施設見学、ビュッフェ形式の学食を食堂で頂くなど、素晴らしい教育環境を体験できた貴重な機会となりました。また、誠祭では、生徒達が日頃お世話になっている地域の方々へ感謝の気持ちを込めた恒例のバザーを行いました。収益25万円余りは、2月の強歩大会に役立てられます。バ

ザー品の提供にご協力頂いた後援会、サッカー部・野球部の保護者会、後援会OB、教職員の皆様方に心より感謝申し上げます。9月には後援会主催で日大文理学部心理学科の河野千佳先生をお招きし「心理学から見た思春期の親子関係」親から、子から、心理学から一少しだけ別の角度から見てもみませんか?—をテーマにご講演を頂きました。我が子はもちろん、人とどう関わるのかという根本をも教えて頂いたとても意義ある講演でした。12月には、全国大会へ初出場を決めたサッカー部の支援に後援会も協力しました。千葉市蘇我の『フクダ電子アリーナ』で生徒達と心をつなぐ応援し、沢山の感動をもらうことができました。2月には学校行事である強歩大会への後援で、コース上の安全管理と共に、寒い中14kmを走ってきた生徒達に豚汁とおにぎりを振る舞います。最後の事業は、卒業謝恩会です。三年間お世話になった先生方に、感謝の気持ちとお礼をお伝えする『感謝と感動の会』を盛大に開催します。

結びに、後援会活動を盛り上げてくださった皆様方の取組に感謝申し上げますと共に、生徒達の学校生活の充実と活躍、並びに後援会の益々の発展を祈念し、お礼の挨拶と致します。一年間ありがとうございました。

講演会報告

日大明誠高等学校後援会

令和元年9月7日(土)本校多目的ホールにて、後援会主催の保護者向け講演会が実施されました。日本大学文理学部心理学科の河野千佳先生から

「心理学から見た思春期の親子関係」親から、子から、心理学から一少しだけ別の角度から見てもみませんか?—をテーマにご講演を頂きました。

「見てもらうことも見せてもらうこともできないのが心」、自分の体験と相手の思いは違うから、何故そう考えるの?を聞いていくことで理解が深まる。思春期・青年期は時間をかけ周りがしっかり見守ってあげる

時』であり、自分の力で課題を乗り越えていけるように理解と寄り添いの心で接して、安心感を持たせて欲しい。と、我が子にはもちろん、人とどう関わるのかという根本をも教えていただいたとても意義ある講演でした。河野先生、ありがとうございました。



## ダンス・チア部全国大会報告

顧問 小泉 宏太

私たちダンス・チア部は2013年の創部以来「一生もの」をテーマに活動をしています。これまで多くのチャレンジを通して「一生もの」と言えるものを得てきました。そして今年度はついに全国大会出場、さらには入賞という新たな「一生もの」を獲得することができました。

具体的には3月の関東予選で優勝し4月の全国大会2位になり、別のコンテストでは6月の関東予選で準優勝し8月の全国大会では3位入賞という結果を残すことができました。

これまで全く入賞することができなかった私たちが、目標としていた全国大会に全て出場し、上位に食い込むことができたのです。

顧問の立場からすれば現役部員の頑張りはもちろんですが、これまで7年間少しずつ実績と文化を積み上げてきた部員一人ひとりに感謝の想いでいっぱいです。3月21日には部として初の自主公演が控えています。これも私たちにとっては大きなチャレンジです。

これからも「一生もの」に挑み続けるダンス・チア部の応援をよろしくお願いします。



# ダンス・チア部全国大会報告

顧問 小泉 宏太



11月9日(土)に行われた全国高校サッカー選手権大会山梨県予選決勝におきまして、日本航空高校を延長戦の末1-0で破り、優勝することができました。

当日は、全校応援ということで普段にも増してスタンドからの声援がとても大きな力となりました。対戦相手の日本航空の仲田監督からも今回の日大明誠高校の応援は一体感があって、とお褒めの言葉を頂きました。本当にありがとうございました。

また、全国大会出場が決まってから、「全国高等学校サッカー選手権大会出場後援会」を設置していただき、賛助金へのご協力、出場までの運営面でのサポートなど本当にたくさんの方々にご尽力いただきました。感謝しかありません。

選手たちは全国大会出場決定後、多くの注目をされる中で、グラウンドの中でも外でも日々成長していきました。その姿をそばで見届けることができ、監督冥利に尽きる想いでした。そ

れと同時に「全国大会」がいかに「夢の舞台」であるかということを感じました。

試合当日の2千人を超える応援団は今まで見たことのないものでした、ダンス・チア部、吹奏楽部をはじめ多くの生徒の応援は本当に感動しました。また、OB、保護者など関係者の方々の応援は選手たちの力になりました。残念ながら勝利することができず、申し訳ない気持ちでいっぱいです。

登録メンバー30名の発表、試合当日のメンバー20名の発表の際、メンバーに入ることができなかった3年生の涙は忘れません。歴史を作ってくれた3年生の想いを胸に、1、2年生と共に必ずあの舞台へ戻って来れるよう強い意志を持って日々取り組んでいきたいと思えます。

たくさんのご支援、ご協力ありがとうございました。

今後とも日大明誠高校サッカー部よろしくお願いたします。







水泳部



体操同好会



陸上部



テニス部



写真部



全国大会にも出場

スキー部



## 強歩大会支援活動報告

実行委員長 西川 秀嗣

伝統行事である強歩大会は、本年度、2月22日(土)に開催されました。

昨年11月の学年別委員会より実行委員会がスタート。初めての担当行事であり、強歩大会をよく知らない1学年のために、2学年役員の方からの素晴らしいプレゼンがあり、1学年委員全員で強歩大会のイメージを共有することが出来ました。その後も、2学年役員の皆様からのアドバイスをもとに、1学年で打合せを実施。しかし、初めてのことばかりで、試行錯誤の連続でした。そのような中で大成功することが出来たのは、2学年の先輩方のご支援と、1学年の皆様の懸命なる準備のお陰と、本当に感謝の思いでいっぱいです。

大会前日準備でも、後援会の皆様が、寒い中、冷たい水での食材の洗い物や仕込み、テント張

りなど、平日にも関わらず大勢の方に参加して頂き、万全の準備をすることが出来ました。

当日は、愛情いっぱいの1,000食分の豚汁作りやコースでの安全確保や誘導などを行いました。子供たちと触れ合う中で、一人ひとりの成長を肌で感じる事が出来、さらには先生方との親睦をより深めることが出来たことは、私たちにとっても大きな財産となりました。

最後に、大会の支援に協力して頂いた後援会の方々、また、ご尽力頂いた教職員の皆様に、厚く御礼申し上げます。そして、コースでの誘導と安全確保につきまして、大勢のサッカー部や野球部の保護者の皆様にご協力頂きましたこと、深く感謝申し上げます。

今後とも、後援会活動にご理解、ご協力くださいますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。





## 令和元年度 後援会活動報告と予定

### 令和元年

- 5月 後援会定期総会  
第1回役員会・委員総会・学年別委員会
- 6月 後援会研修会(目大文理学部訪問)  
誠祭バザー・お茶処 準備  
誠祭バザー・お茶処 実施  
明誠フェス
- 7月 「広報さくら」発行 108号
- 9月 講演会  
祭典パトロール
- 11月 第2回役員会・委員総会・学年別委員会  
体育祭応援合戦

### 令和2年

- 1月 賀詞交歓会
- 2月 強歩大会豚汁 準備  
強歩大会豚汁 実施  
「広報さくら」発行 109号
- 3月 卒業式・卒業謝恩会
- 4月 入学式  
第3回役員会
- 5月 第4回役員会・後援会定期総会

### ◆ 編集後記 ◆

今年度も皆様方のご協力により、「広報さくら」を無事に発行することができました。発行にあたり、お忙しい中、原稿をお寄せくださいました先生方、役員の皆様、また、お手伝い頂いた方々に広報部一同、心よりお礼を申し上げます。

日ごろ学校に足を運ぶ機会の少ない保護者の皆様に、少しでも学校と、生徒たちの様子を伝えられればと広報部員一同努めてまいりました。一つでも目に留まった記事があれば幸いです。

これからも皆様楽しんでいただける「広報誌」を心がけ、作成に励んでいきたいと思っております。ご意見、ご感想などお寄せ頂けると幸いです。

一年間ありがとうございました。

(広報部一同)

